

U. H. 2025年卒 スポーツ・福祉コース

こんな学生時代を過ごしました

大学生生活の4年間は、自分と向き合い続けた時間でした。実習やゼミ、相談援助実習、アルバイトなど、さまざまな場面で多くの人と出会い、その都度異なる価値観や考え方に触れることができました。こうした経験を通して、単に知識や技術を学ぶだけでなく、自分の考え方や行動の癖を理解することの大切さを実感しました。

実習ではCSW実習に所属し、主に徳力団体での活動をまとめる役割を担いました。ATB活動やお手紙配布はコロナの影響を受けながらも、住民の方を第一に考えた活動にするために何度も検討を重ねました。その中で、メンバーと意見が衝突することもありました。当時の私は自分の意見を主張するばかりで、相手が納得できるように伝える工夫ができていませんでした。しかし、この経験から「まずは自分を理解し、伝え方や関わり方を工夫することが必要だ」と気づきました。自分の考え方を知り、相手に配慮することで、意見が伝わりやすくなると同時に、相手の考えも理解しやすくなりました。

ゼミや相談援助実習では、理論と実践を通じて専門職としての自己理解の重要性を学びました。病院や児童養護施設で利用者の方と向き合う中で、自分の価値観を知っておくことが、支援の質や他者とのコミュニケーションに直結することを実感しました。

アルバイトでは、飲食店、競馬場、幼稚園、サッカーチームのグッズ販売などを掛け持ちし、働く場所に合わせて、自分を使い分けていました。そうすることで自分の得意なことがわかり、自然と対応力も身につきました。

このように、私は大学生生活を通して、多くの人と関わり、多様な価値観に触れながら自分と向き合い続けました。以前より柔軟に考え行動できるようになり、自分に矢印を向けながら他者とコミュニケーションができるようになりました。学生生活で多くの人と出会い、自分自身を知れたことが、4年間の大きな収穫です。

卒業後こんなキャリアを歩んでいます

北九州市福祉事業団に就職し、現在は到津ひまわり学園という児童発達支援センターで、児童指導員として働いています。

発達に特性のある未就学児のお子さんを対象に、日々の遊びや活動を通し、その子に合わせた療育支援を行い、成長をサポートしています。実際の現場では、それぞれの子どもたちに合わせたコミュニケーション方法や関わり方、行動分析、支援計画の作成、保護者支援など戸惑うことや難しいことも沢山あります。しかし先輩職員に聞きいたり、接し方、声の掛け方を真似したり、日々勉強する中で、少しずつですが支援の幅が広がっているように感じます。ひとりで〇〇ができた！大人の言葉に反応してくれた！新しい言葉が出た！笑顔が増えた！苦手な食べ物が一口でも食べられた！など挙げたらきりがありませんが、小さな変化から大きな変化まで、全てがその子にとっての成長であり、それを常に支援の中で感じる事ができ、日々喜びと学びをもらっています。子どもたちの「できた」が積み重なっていく瞬間に立ち会えることは、この仕事の一番のやりがいです。

今後は現場でより専門的な知識と技術を身につけ、子どもたちと保護者に安心してもらえる存在になることを目指しています。また将来的には社会福祉士の資格や現場の経験も活かしながら、仕事の幅を広げていきたいと思っています。

現役生へのメッセージ

地域創生学群だから経験できること、大学生にしかできないこと、沢山あると思います。大学生という武器がある今だからこそこできることと、人のご縁を大切に、充実した学生生活を過ごしてください。そしてそれらの経験が、社会人になったときにあなたを支えてくれる財産になると思います。失敗を恐れず挑戦し、自分の強みや価値観を知り、今後の人生がより豊かになりますように。応援しています。

(2025年11月30日執筆)



CSW実習で小学生向けに実施した、ATBというイベントの写真。コロナの影響があるかのようなイベントにするか何度も協議しました。これは最終日の工作の様子です。



お名前呼びの様子です。子どもたちの「できた」に注目して、その子に合わせた声掛けをするように心がけています。